

令和6年度 ほどほどの会

日時:2025年2月17日(火)15:30~17:00

場所:港北病院

参加者:田中(わおん)、加藤(リンク)、藤井(常盤台病院)、芳垣(区役所)、田村・早川(基幹相談支援センター)、小池(港北病院)、西東(今井地域ケアプラザ)、佐藤若(生活支援センター)(敬称略)

【議題】

1. 次年度の年間計画について

4月以降の体制について、退職・異動の報告

① 病院内でのケース検討

・次年度5月20日の会でフォーマットを使用し、田中氏・センター・港北病院関わりのあるIC氏ケースを検討
医療・保健の面で予防的にできることがあるか検討できるとよいか

上菅田地域ケアプラザの方にも参加いただけるか声をかけてみる→佐藤

・事例検討の結果からわかった課題をほどほどの会に留まらず、他の部会の場などでも共有していけるとよい。

・今後在宅医療連携室とほどほどの会で繋がりが作れるとよい

② 協働活動(生活教室、出張あかね工房)

・生活教室

参加調整は常盤台病院と区で都度行い、会では振り返り報告とする。

・出張あかね工房

→スケジュールについて、年間計画案参照

ほどほどの会のお品書きと併せて、協働活動に関するアンケート作成を進める

2. 事例検討

〈常盤台病院〉

① 76歳 女性 妄想性障害

入院継続が難しいことを長男にお伝えした上で、ご本人へ電話で自宅退院は拒否であることを告げてもらう。

→長男と病院で連絡取れにくくなっている。地域支援者を導入してみることは主治医の許可出ているが、施設設定しても飛び出して長男へ会いに行くなど懸念あり。後々のサービス利用のため介護保険の申請はしておけるとよいが、障害サービスと併用できるほうがよいのかなど、後々本人の不利益にならないようアセスメント必要。

妄想は取りきれないため、リスク想定の上受入れ可能な施設を探していくか。

→本人拒否の可能性は高いが、動悸付けから退サが導入できるとよいか。病院とセンターで調整。

② 88歳 男性 双極性障害 要支援I

外泊時に転倒してしまい、家族が自宅で見ていけるのか心配している状況。

外泊 2 回目の 11・12 日の様子を確認する
→ 自宅退院し、他診療所で外来通院となった。

③ 58 歳 女性

阻害要因：戸籍ない、亡くなった扱いとなっている。本人が行方不明になった際に家族が死亡届を出してしまった戸籍を復活させる方法はあるが個人の特定はできているが、本人は自分が中国人だという妄想があり、中国名を名乗ってしまうため復活できていない。八王子の救護施設は戸籍なくても受入れ可だったが、クロザリルの治療の件もあり常盤台に通院継続してほしい。

→ 法テラスへ依頼し弁護士と面会した。戸籍の復活は可能性ありとの返答、八王子の生保と弁護士と調整中。救護施設はクロザリルの治療終了しだいで受入れ可能。

〈港北病院〉

・新規検討したい患者さんがいたが病状悪化してしまった。様子を見て検討に上げたい。

→ 鬱症状、身体の不具合、声出しなど状態悪化。家族の希望によりリハビリのできる病院へ転院検討中。事例検討の候補からは一度除外。

・昨年度のケース検討後、区役所へ法律相談をした方

→ 退サポからご本人アセスメント、病院からはいここへアプローチしていく。

→ 今年度検討にあがった事例は2月で終了

3. その他

・病院連絡会、交流会について

病院の参加しやすい開催方法で、事例検討の日など併せると参加しやすいかもしれない

→ 開催案内は港北病院にも共有する。時期は11月目安で調整。

・来年度予算（お品書きチラシ、社会資源チラシ、交流会費）

→ 平良所長へ確認

次回：2025年3月18日（火） 15:30～17:00 場所：常盤台病院